

超感度



VOL.14

ちょうかんど2025.2.1



昨年3月に開催された第2回日芸ふくしま音楽祭の写真です。こんなに大勢の人が参集したのは恐らく初めてです。出演は我妻順子さん(ピアノ)、瀬谷京子さん(琴)、白石宏道さん(ウクレレ&歌)、渡邊華さん、栗原優風さん(ギター&オーボエ)でした。またギャラリートークを開催しました。鉄道写真家小松拓也さんの作品に音楽を交えて「高原列車は行く」などの曲を遠藤歩さんのピアノ伴奏で紹介しました。

この年能登半島大地震が発生しました。東日本大震災と原発事故を経験した私たちは石川県の一日も早い復興を祈りました。震災を経験した宮城江古田会と石川江古田会から各代表が福島を訪れ音楽で交流しました。会場では石川県への義援金を募り集まった3万円を石川江古田会の

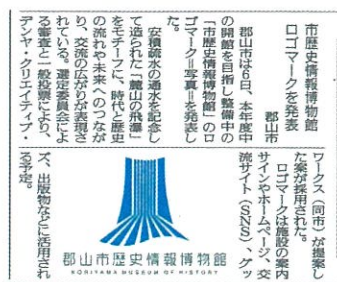


干場(ほしば)文夫事務局長に手渡しました。口下手けど愛想がよく辛抱強く震災を乗り越えた福島県民からの支援金です。能登半島では豪雨被害も発生し2回も辛い思いを経験した人もいます。でも必ず復興します。福島も復旧しました。辛い時に歌が生まれます。東日本大震災の被災地復興のためのチャリティーソング「花は咲く」をはじめ、郡山出身である西田敏行さんの「あの街に生まれて」が歌われました。古くは五輪真弓さんの「心の友」がスマトラ沖地震で被災したインドネシアの人たちの間で歌い継がれこの歌から勇気もらったという人が多くいます。

次回の音楽祭は昭和100年歌謡祭を行います。今年4月20日(日)郡山市ミュージカルがくと館です。別紙チラシを参照ください。プロジェクターで昭和の写真などを音楽に合わせて投影します。昭和の原風景を描いた絵画作品や懐かしの写真を酒井会長までメールしてください。音楽と映像で昭和を振り返りませんか。

酒井メールアドレス⇒cys03204@gmail.com

日本大学校友会福島県支部の総会が開かれました。ふくしま江古田会からは酒井支部長、県支部監事の鈴木賢さん、増賀睦朗さんの3名が出席しました。芸術学部の近況として郡山市歴史情報博物館のロゴマークは、ふくしま江古田会の田中聡さん制作のものが採択されたことを報告しました。福島民友新聞にも紹介され、安積疎水の通水を記念して造られた「麓山の飛瀑」がデザインされています。総会には博物館準備室の嶋根裕一室長も同席していて田中さんの業績をたたえていました。



会場では話題となったのは日大節です。実は日大節と近畿大学の近大節が酷似しているとのこと、どちらが先なのか、どちらがマネをしたのか、真相が知りたいとのことでした。YouTubeには近大節がMVで紹介

されていてこれを見た人は「日大が真似した」ととられてしまいます。ネットでは近畿大学は「近大節」で著作権を取得したので、日大に自粛するよう求めているとか。しかし真相はよくわからないとの結論に達しました。ところで日大工学部の日大節は「東に清流、阿武隈川を望む(ヨイシヨ)、西に霊峰、磐梯山を仰ぐ(ヨイシヨ)、ここ東北郡山徳定の森に巍然とそびえたつは我が日本大学であ〜(ヨイシヨ)♪ここは東北か〜郡山の町か〜郡山の町なら大学は日本…と工学部出身の諸先輩から教えを受けました。

ふくしま江古田人活躍レポート①

福島市出身のギタリスト井上仁一郎さんのコンサートが郡山市にある南東北病院のナベホールで3月に開催されました。音楽学科出身の井上さんは10年ほど前からこの病院で患者さんを励まそうと毎年ギター演奏を続けていました。コロナで久しぶりの公演となったため井上さんを待ちわびていたファンが大勢つめかけ「アルハンブラの思い出」や「ニュー・シネマ・パラダイス」、「オーバー・ザ・レインボー」などの有名な曲が演奏されました。井上さんはナイロン弦を用いたフィンガーピッキングスタイルで多種多様の音楽を奏でるギタリストです。日芸を卒業後ヨーロッパ各地で研鑽を積んだことで、国内外多数のコンクールで上位入賞しています。



ふくしま江古田人活躍レポート②

毎年日芸ふくしま音楽祭に出演してもらっている白石宏通さんの傘寿コンサートが9月に郡山公会堂で開かれました。白石先輩は日芸の軽音学部出身で卒業後はプロの演奏家としてレコードデビューも果たしました。特にハワイアン音楽と出会ったことで歌&ウクレレ奏者としての活躍が長く、ムード歌謡で鍛えた甘い歌声で多くのファンをとりこにしてきました。古殿町出身ですが今は郡山市で音楽教室を主宰しています。福島に移住して20年。80歳の記念にメモリアルコンサートを企画し、ふくしま江古田会も制作面で協力しました。伴奏はピアノがSoyokaさん、ギターは新田慶治さんが協力してくれてテンポのいいハワイアンのリズムが展開されました。会場にはウクレレやカラオケ教室の生徒さんや、奥様が教えているフラダンスのお弟子さんも訪れ終始華やかな雰囲気に含まれていました。また昭和歌謡の名曲も歌い一人で20曲を歌唱する白石さんのパワーはとて80歳とは思えません。



ふくしま江古田人活躍レポート③

前会長で美術学科卒の吉田公之さんが絵画や陶芸など自分の作品をポストカードにしました。高齢で視力が衰えたり体が不自由になっていたそうですが、リハビリの効果もあって手の震えなどがなくなり今では筆やペンを持つことが可能になりました。本人は「終活ではありません」と言って、過去の作品を整理することで、新たな挑戦をしたいと話していて、絵を一枚でも多く描けるようになりますと意気込みを見せています。吉田前会長は過去3回開催されたアート展の責任者として大変な苦勞をなさいました。「アート展どうなっているの」と会長の酒井は怒られっぱなしです。



◆◆◆◆◆ 会員近況 順不同 敬称略 ◆◆◆◆◆

◆高見沢功(映画)1月新刊小説「日比留の海」歴史春秋社。3月コミック原作「丘灯至夫」小野町など執筆。◆渡邊華(音楽)去年の音楽祭に出演させていただきました。諸先輩方と交流を持つことができ刺激をもらいました。◆安川ゆみ子(放送)オカリナと竖琴の講師をしています。通信で大学の心理学部を卒業し社会福祉士の資格をとりました。◆佐藤淳子(放送)近所の友達と我が家で弁当でお茶しています。出かけるのは信夫山公園の散歩くらいです。◆高橋尚暉(写真)国内外に撮影の一年となりそうです。◆斎藤仁(放送)TUF役員を退任しました。◆我妻順子(音楽)高齢人口が益々増え音楽教室のシニアクラスの充実を積極的に計画中です。◆鈴木孝之(放送)加齢により体力低下顕著です。筋力も落ち外出を控えています。◆山田仁(放送)今は福祉関係の業務に携わっております。プライベートはゴルフと酒の日々です。元気です。◆小松拓也(写真)これからの生き方を模索中です。◆増賀睦朗(文芸)毎月の展覧会と月1のゴルフとロータリークラブの例会等で多忙を極めております。

編集後記

依然として日芸校友会本部からの補助金は年間3万円です。これまでは5万円でしたので2万円マイナスのままです。2万円は10人分の年会費にあたります。資金繰りから会の運営が厳しくなっています。郵便代やコピー代を節約するのも限界があります。デジタル化してインスタライブやWEB会議を可能にしたり連絡はメールやラインでやるなどです。FacebookやYouTubeなどで情報を発信し会員を増やす必要もあります。80歳の白石先輩は週に1度はインスタライブで音楽を配信しています。ところで、日芸校友会が始めたFacebookに美術学科卒の荒井良二さんの展覧会が、いわき市立美術館で開催中との記事があり早速行ってきました。荒井さんのひとつのテーマが震災です。3.11東日本大震災と原発事故から12年が過ぎました、で始まる展示には、バケツで飲み水を運ぶ子供たちをイメージした絵画や津波で流されてきたピアノを表現したオブジェが展示されていました。NHKの朝ドラ「純と愛」の題字とオープニングイラストを手がけた荒井さんらしい作品でした。純と愛では阪神・淡路大震災が幼少の記憶として登場してきます。荒井さんは心の中で「ただ逃げろ」と叫びながらこれらの作品を製作しました。映像や写真のリアルだけでなく震災の表現があっても感動しました。(会長 酒井泰彦)

